

松山地域の学校の在り方に関する検討内容の中間取りまとめ

1 基本方針

『「将来の担い手となる子供たちにとって、より良い学びの場となるよう検討を進める。検討に当たっては、当事者である保護者の意見を大切にす
る。」ことを基本とし、「教育のまち 松山」の構築を目指す。』とする。

2 具体的な方向性

(1) 統合の賛否 統合する。

統合の賛否については、保護者アンケートにおいて、「小学校3校のみを統合する方が良い」が44.9%、「小学校3校と中学校を統合し、小中一貫校（義務教育学校）とする方が良い」が34.8%となり、合計で79.7%の保護者が小学校を統合することを望んでいる。また、当委員会委員の意見集約において、回答のあった委員14人の全てが統合に賛成していることから、統合する方向で進めることとする。

(2) 統合の形態 小中一貫校（義務教育学校）とする。

統合の形態については、保護者アンケートにおいて、「小学校3校のみを統合する方が良い」が「小学校3校と中学校を統合し、小中一貫校（義務教育学校）とする方が良い」を10.1ポイント上回っていたが、当委員会委員の意見集約において、回答のあった委員14人のうち、小学校のみ統合が5人、35.7%、小中一貫校（義務教育学校）が9人、64.3%となったことに鑑み、小中一貫校（義務教育学校）とする方向で進めることとする。

(3) 統合後の学校の位置 松山中学校とする。

統合後の学校の位置については、統合の形態が小中一貫校（義務教育学校）となったことを受け、これから新たな学校敷地の取得をする場合は、開校までに更なる時間を要することが見込まれることから、事務局から提案のあった現在の松山中学校で進めることとする。

(4) 統合の時期 令和11年4月とする。

統合の時期については、小学校のみの統合の場合、小中一貫校（義務教育学校）の場合のいずれも最短で統合することを多くの委員が望んでいることから、小中一貫校（義務教育学校）の最短である令和11年4月に統合する方向で進めることとする。

3 教育環境の整備等

- (1) 小学校の統廃合に当たっては、ハード面及びソフト面共に児童生徒が安心して通えるよう教育環境の整備をしっかりと行っていただきたい。

- (2) 小学校の統廃合に当たっては、児童の環境の変化に対応できる体制の整備を図っていただきたい。
- (3) 小学校の統合に当たっては、松山小学校及び尾野見小学校の児童の通学距離及び通学時間がこれまでよりも長くなることから、スクールバスを導入する等、児童の負担とならないよう通学手段を確保していただきたい。また、自転車通学の対象となる生徒についても、利用することができるよう配慮していただきたい。
- (4) 小学校統合後の学校跡地の有効的な利活用策について、地域と共に検討するなど、伴走型の支援をしていただきたい。
- (5) 統合するまでの4年間は、中学校及び小学校3校が授業、学校行事等を通じて積極的に児童生徒の交流の場を設け、全ての児童生徒が統合後の学校での学校生活にスムーズに適応できるようにしていただきたい。

4 今後の協議

1 から 3 までの内容について、報告を含め、地域や P T A 等で協議していただき、令和 7 年 4 月に開催予定の検討委員会で最終的な取りまとめを決定することとする。

令和 7 年 1 月 30 日

志布志市松山地域の学校の在り方検討委員会